生きる上で最も大切なこと

㈳日本 ITF テコンドー協会　理事長　岸玄二

おはようございます。
まずは国内最大の大会を運営していただいています池場実行委員長、並びに大会スタッフの皆様、本当にありがとうございます。

今日が今年最後の大会となりますが、本日も心のあり方についてのお話をさせていただきます。
ここまで各大会で基本的なことを述べさせていただきましたが、今日はもう少し本質的な部分で生きる上で最も大切なことについてお話させていただきます。
最も大切なことはその人がどのような生き方をされているかにもよりますし、一つに絞ることも難しいテーマであります。ですの私のお話もあくまでもご参考になればというところでお聞きいただければと思います。

まず話のきっかけとして『品格』についてのお話をいたします。品格とは何かご存知でしょうか？簡単に言いますとその人や物が持っている雰囲気、空気感といった理解で良いと思います。たまに人目を引くような雰囲気を持った方もいらっしゃいますが、こういった品格はどのように作られるかご存知でしょうか？

答えは簡単で見えないものというものは見えないところで作られます。

簡単に言いますと人が見ていないところであなたが何をしているのかということが積み重なって作られていきます。
子供たちにこれは絶対にやってはいけないよということは人の悪口、陰口を言うことです。相手がいないのに好き勝手その人のことを言うことは卑怯なことです。そういった方にはやはりそのような空気が備わりますし、人が見ていないところでも一生懸命に行動されている方にはそのような空気が備わります。
人間というものは隠せそうでいて隠せないものです。このことは覚えておくと良いでしょう。

今日伝えたいことはこのことではなく、ここを切り口にお話させていただくのですが、たまにですがこのような声を聞くことがあります。『みんな岸先生の前では良い子です。』と。
では私の見ていない所では皆さんはどうなのでしょうか。
それを見たいわけではなく、人間誰しも相手によって自分の態度を変えることはあります。

私も少なからずあります。
ではなぜこのようになるのかと言いますと、判断基準が『損か得か』で判断しているからです。しかしながらこの判断基準の割合が大きくなればなるほど良からぬ方向に行くことになります。
子供が相手の場合は問題無いと思います。子供は裏表が無く、悲しい時は泣き、腹が立てば怒る、嬉しいと笑う、とても素直です。
しかし大人になるとそうはいきません。大人は取り繕うことがよくあります。私を例にとりますと理事長としての私はどれだけ腹を立てていても表には出しません。言葉のより丁寧に扱います。理由は立場がある者の一言は受け取り側にとってより大きく受け取られます。少しの事でも相手を傷付けてしまいますのでそうならないようにしています。
しかし相手から見ると厳しいことも言われませんのでそれで良いんだとなりがちです。しかし本当に良いのでしょうか。
また人は置かれている状況であったり相手の状況、もしくはその人自体の変化によって言うことはコロコロ変わるものです。
損得で動いていると基準が相手になります。しかしながら前述の通り相手は本心を出さなかったり言うことが変わったりするものです。そういった変化するものを基準に生きているとどこか行き詰まるものです。また上手くいかなくなった時になぜ上手くいかないのかも分からなくなりがちです。

では何を基準にするべきなのかと言いますと、人として正しいかどうか？自分としてあるべき姿はどうであるのか？そういったものを基準とするべきです。
具体的には何も難しいことではありません、自分が卑怯なことをしていないか、嘘をついていなか、自分だけ得をしようとしていないか、正々堂々とやれているのか、誰もが子供のころに教えられていることで十分です。そういった変わることのない人間としてのあり方を基準とすることです。
そしてそれを基準とするにはそれに対応した”目的”が必要です。人生の目的に今より少しでもマシな人間に、良い人間になることを生きることの目的とする必要があります。

ですので皆さん明日からそのように生きていきましょう。
と言っても人は動きません。
ですので動くために考え方が必要です。ここからが今日のお話の大事な所です。

また例え話ですが私は理事長としてこの組織を運営させていただいています。
組織を運営すれば悩むことや迷うこともあります。そういった中で正しいであろう判断をする必要があります。
ありがちなパターンとして自分がトップに立った時に”ようやく自分の思い通りにできる”

と思ってしまい、誤った判断をすることがあります。誰しも誤った判断をする場合があるのですがこういった場合の背景にあるのは傲慢さです。
そうならないために自分がどのように考えているかと言いますと、”この組織を私は預かっているだけ、もしくは授かっているだけ”と考えるようにしています。誰からかと言いますと大元を辿ればチェホンヒ総裁からです。近しいところで言えば金前理事長（金師賢）からです。私はそれを受け継いで、また次の方達へと渡すことが自分の使命となります。

そう考えることで自分がどう思えるかと言いますと、受け継いだものを出来る限りより良いものにして次の方達にお渡ししようと思えます。そしてそう思えるのは今の自分の番に至る前にこの組織を作られてきた方達への”感謝”と”敬意”があるからです。

この”感謝”と”敬意”に基づいた自分を良くしていこうという思いには、必ず正しい指針が伴います。この正しい指針というのが前述の人間として正しいかどうか？自分があるべき姿であるかどうか？というものです。

今日お伝えしたかった一番大切なこととは、今の自分がある前提となるものに対して感謝と敬意を忘れないことです。皆さんの人生においてはそれは親に当たります。親への感謝と敬意は忘れてはいけません。時に忘れてしまうこともあると思いますが、事あるごとに思い出してください。それが自分を正しく良い方向へと動かしていきます。

この考え方を武道に置き換えるとそれは師弟関係になります。武道において師弟関係とは最も重要なことです。時に師より高い技術を得ることもあるでしょう。しかしながらそういった時も師への感謝と敬意を忘れずに武道を続けていくことが必要です。
それを忘れた者は糸の切れた凧と同じようなものであらぬ方向に行きがちです。

人間には常に自分を良くしていこうとする意思があります。
しかしながらそれにもレベルがあります。本当の意味で変わろうとする者もいれば態度や見た目のみを変える者もいます。
より高く、正しい方向で自分を良くしていけるように、前述のことを忘れないことが大切なことです。

最後になりますが武道の目的は”強くなること”です。
そして”強い”とは”あるべき姿でいること”です。
私もいつかは次の方にこの組織を引き継ぎます。そして次の方もまたその方なりにこの組織を良くしてまた次の方に引き継いでいきます。
そうして変化をしながらこの組織は続いていってほしいものですが、いつ時代でも我々が

扱う武道というものが人間にとっての”あるべき姿”を問うものであって欲しいと願っています。

私からは以上です。
ありがとうございました。

＜以下、全日本大会閉会式にて＞

新人戦の開会式にてお話ししたことを簡潔に述べさせていただいた後で、全日本ということで世界選手権に関わるお話をいたします。
先日もヘッドコーチとして日本チームを統括させていただきました。とても良いチームだったというご意見と、そうでもなかったというご意見、当然ですが意見は色々とあります。私は全体を俯瞰して見させていただいた印象はまだまだチームとして１つには慣れていないという印象でした。
どんなチームを作りたいかと言いますと、誰かが負ければ皆で悔しい思いをし、誰かが勝てば皆で喜ぶ、思いを共有したチームです。ややもすれば今はライブストリーミングにて誰もがリアルタイムで見れるようになっています。日本中が一つになって思いを共有できるようなチームにしたいと思っています。

そういった中で日本代表になられる方に求めるものは、日本代表になる前に自分の道場の代表になって欲しいと思っています。道場を代表するような人間性を備えた方であって欲しいと思います。道場中があなたを応援してくれるような人間です。
そういった方達が集まって一つのチームを作れればと思っています。我々はそれぞれが離れた場所から１つになってチームを作ります。なので仲が良い必要はありません。しかしお互いが認め合っている必要はあると思います。そうなるためには強いだけでは足りません。人から認められる人間性も備わるようテコンドー精神、特に礼儀を大切に自分を磨いてほしいと思います。

今日で今年の行事が全て無事終了しました。
大会スタッフの皆様、選手の皆様、保護者の皆様、この組織に関わる全ての方達に感謝を申し上げます。
本当にありがとうございました。来年もよろしくお願いします。

2023 年 11 月 25〜26 日
第 15 回全国新人戦
第 16 回全日本テコンドー選手権大会　第 7 回全日本 Jr テコンドー選手権大会にて